

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071300236		
法人名	有限会社ゆりかご		
事業所名	グループホームゆりかご		
所在地	長野県飯山市静間2900-2		
自己評価作成日	平成22年10月13日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071300236&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多機能型の宅幼老所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、通所介護、介護タクシーを併設し、地域に密着したサービス提供を目指している。利用者、家族、地域の方々にとって「よりどころ」となれるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯山市の市街地から少し離れた千曲川の川沿いにグループホーム ゆりかごがある。2階がグループホーム、1階がデイサービスである。経営者の福祉に携った経験を活かし「ゆりかごから墓場まで」を意識し最期まで関わってほしいという思いから「グループホーム ゆりかご」を始めた。「お年寄りを敬う」という会社の理念から時間に合わせる介護でなく利用者に合わせた介護を行うように日々努めている。経営者がこの土地の方であることから地域からの信頼もあり、交流もあり毎年、食事会を行い、野菜などもいただき隣人としての付き合いの様子が見られる。共有スペースである食堂は小じんまりした空間が利用者の落ち着きにつながり、職員はどこからでも利用者の見守りができるテーブル配置となっている。利用者の中には職員と一緒にいることで自分がこのホームを支えていると思い精神安定につながるなど利用者の生活歴から個々のケアにつなげている。今後、地域の協力体制を活かし運営推進会議への取り組みに努め、防災訓練への支援体制の構築、運営への助言、協力者、モニター役などになっていくことを期待したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りを敬う」という基本理念を掲げ、常に念頭におき、理解し、支援に取り組めるよう努めている。	理念はホーム内に掲示され、利用者は自由に過ごしてもらいたいという。理念に基づき、ホームとしての目標を「その人らしく、その人のために」と具体化し日々の取り組みに努めている。介護の中で一人ひとりの思いを汲み支援している。	地域密着型サービスの理念は、地域でその人らしく生活し続けることを支えていくものと捉え、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ職員間で話し合い、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念をも考慮することを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を開催したり、グループホーム側からの働きかけにより、ボランティアサークル等の来所も増えている。	地域交流として年に1回程度、隣組の方が集まり食事会を行う。近隣の方から野菜が届けられ老人大学の地域ボランティアなどの来所も増えている。小学校の児童が紙芝居、歌など披露してくれる。近くの高校からは合唱部が2カ月に1回程度訪問し楽しい時間を過ごしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談対応、見学、研修は、常時対応できるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度始めに、今年度の事業計画を話し合い、その都度関係機関との話し合い、協議をしている。	運営推進会議は、年度初めに包括支援センターの職員が出席し、開催され今年度の事業計画について話されグループホーム通信が発行されるようになった。	運営推進会議には、利用者、利用者家族、地域住民の代表、市町村職員、包括支援センター職員、必要に応じ地域密着型サービス知見者などが集まり事業所活動や利用者の現状、外部評価と改善の取り組み等の報告を行い助言など地域交流促進の場と考え質の確保のため、2カ月に1回程度の開催を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	部会等に参加しながら、連携をはかれるよう努めている。	グループホーム宅老所連絡会の中に部会があり、勉強会が行われる。県や、市が開催する勉強会などにも出席するなど連携が図れるよう努めている。	

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束についての理解を深め、拘束による弊害等も十分に把握しながら拘束はしないようにしている。	ホームは2階にあるが施錠は日中夜行っていない。以前、夜間など眠らず歩いている利用者がいた時にも利用者の自己尊重を優先に安全に配慮した対応を行うなど拘束排除のケアには十分理解し取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、復命書等で全職員が内容を共有できるように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在1名、成年後見制度を利用されているが、今後も必要な方が居れば、積極的に活用できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に際しては、細部まで責任者が文面、口頭にて説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては、日々の生活の中で常に耳を傾け対応できるようにしている。家族は訪問時に連絡ノートに記入していただくなど、意見を聞けるように努めている。	利用者の居室には面会ノートが備え付けられている。家人の意見や要望が気軽に聞ける体制に努めている。スタッフからの連絡ノートとしても利用している。利用者からの意見なども日常の中で耳を傾け見逃さないように心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、2週間に1回の責任者による定例会議で、職員からの意見を聞き、反映できるようにしている。	毎月1回の全体会議があり、業務改善についての話し合いがある。2週間に1回の責任者会議もあり職員からの意見反映ができる場がある。職員も日々、意見等言いやすい環境にある。	

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得などにも積極的に取り組んでおり、勤務時間・給与水準等は各自の希望に合うように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、それぞれの職員に合わせた研修が受けられるように働きかけている。また、伝達講習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等に参加し、同業者との交流意見交換、学習会等を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に施設見学をしていただき、ニーズの聞き取りを行う。その後生活の場として合うか、ニーズを満たせるかを総合的に判断していただく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の施設見学を通し、ニーズの聞き取りをする。その後、家族の希望されるサービスを提供できるかどうか、総合的に判断していただく。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能的な面を併せ持ったため、自施設、他施設を問わず、利用者のニーズに合ったサービス提供が出来るように心がけている。		

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの経験を大切に、できるだけスケジュールにとらわれず、利用者のペースに合わせて支援できるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、来所時等、家族の意見・希望等を聴きながら、本人と家族、家族とスタッフのコミュニケーションをはかれるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの聞き取りなどを通じ、積極的に働きかけるよう心がけている。	ホームの外出行事には、家族支援もお願いする。帰宅願望がある方には家族と出かける機会や職員が車で連れ出し、納得してくださる方もいる。センター方式を利用し利用者の馴染みの係や馴染みのものの把握に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態等を念頭におき、利用者間でのコミュニケーションが図られるように支援している。また、プライベートな時間や空間を作ることに注意している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問、電話対応などが出来ることを説明し、関係を断ち切らないように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や、定期的に本人、家族からの聞き取りにより確認し、職員会議等で意見を交わしながら、利用者さんの希望に沿えるように努めている。	入居前の暮らしぶりや思いを家族にセンター方式を利用し記録してもらう。帰宅願望、夜間眠れていない利用者にもケアの統一を図りパジャマ更衣の時間を家の状況に合わせ、布団を敷き布団をたたむなどメリハリをつける工夫で本人本意に検討している。	

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、聞き取りを行い、職員全員が把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人がアセスメントシートの記入をすると共に、月一回の会議にて検討し、個別ケアに繋がるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時に、各自がアセスメントシートの記入、職員間での話し合いをし、本人・家族の希望をできるだけ取り入れるようにしている。	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っている。計画見直し月の1か月前には話し合いを行い評価を行い次のサービスにつなげている。家族の希望や意見は介護計画見直し時に連絡を取り、聞き取りしている。家族希望も担当者会議の記録に残すなど工夫を期待したい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホーム業務日誌、個人ファイルの記入アセスメントシートを記入し、情報を共有できるように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自主事業として、ショートステイ、日中預かり、介護タクシーなど、ニーズに合わせた支援を行う体制を取っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の小学校、ボランティアサークル、個人慰問などとの交流を図れるように働きかけている。		

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医と連携を取りながら支援している。相談話し合いを大切にし、納得の行く医療を提供できるようにしている。	入居時に、本人、家族と相談し、ホームの嘱託医にかかりつけ医を変更する方もいる。入居前からの主治医で継続する方もおり、家族が受診に連れていく。家族の意向により適切な医療を受ける支援が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問し、本人・職員からの訴えに対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、家族、病院、主治医と話し合いをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の希望を伺い、できる限り希望に沿えるように、家族、主治医と十分に検討している。	「重度化した場合における指針」が作成された。ホームには看護師はいないが、週3回の訪問看護、2週に1回は往診があり緊急時などの体制が整っている。家族や利用者とホームができることを説明し納得いく形で終末期を迎える取り組みを行う準備がある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法、救急法の講習を受けている。緊急連絡網の訓練も定期的に行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡訓練、避難訓練を実施し、有事に備えている。また、地域の方にも訓練への参加を呼びかけて、協力をあおいでいる。	避難訓練、緊急通報訓練は年に2回消防署の協力のもと、春、秋に行っている。夜間想定をして人員が少ない中連絡網で確認し避難訓練をした。利用者は外に出るときに自分の靴を探して戸惑うなどの課題もあった。自動通報システム、スプリンクラーが今年度中には設置予定である。	地域住民の災害時の協力体制は依頼しているが、まだ避難訓練に参加していただくことはなく、今後運営推進会議などでの呼びかけを行い、協力を得ながら避難訓練が定期的実践されることが望ましい。

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重し、尊厳を守ることを会議等で話し合い徹底している。	ホームの一日に流れはあるが、時間で縛ることがなく利用者の思う生活への支援を行い自己決定できる支援をしている。記憶力の低下から思い違いがあっても利用者の誇りを傷つけないように言葉かけ、対応の工夫をしている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の内容、質問方法において常に利用者を意識し、自己決定を促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内での目標である「その人らしく、その人のために」を実践できるよう、自己決定の尊重、個別ケアを意識し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の協力を得て、出張サービスでの支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理員が作るが、盛り付け、配膳などは利用者に協力していただく。	デイサービスが併設していることから、食事は調理員が作る。朝食のみ職員が作る。利用者の好みなどは毎月開かれる給食委員会で各部署からの意見により献立が決まる。食事のアンケートも取り反映されている。食事時に御茶を配る人盛り付けの手伝いをする人等、自分のできることを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、日誌に記録し、管理している。ここにあわせて盛り付けの量、形態を考え食事量が低下している利用者に関しては、主治医に相談し、栄養補助食品等で補っている。		

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、行為が出来ない方には、ガーゼ等を用い清拭を行い、対応をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、個人に合わせた排泄介助を行うように努めている。	オムツ使用の方は2名、リハパン使用にてトイレ誘導する方もいる。本人の排泄パターンを観察し無理強いせずトイレに行けるように声掛けしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分補給、運動を心がけている。また、下剤の使用は、看護師の支持のもと、担当者が責任を持って行うよう徹底している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っており、希望者は入れる体制をとっている。	入浴は週3回午前中に行っている。寒くなり午前中はいることに抵抗を示す方もいるが今後の検討課題となっている。夏に汗もかくため時間を変更し入浴を試すなど行い、今後の入浴個別支援の工夫が必要と考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠までの導入支援をそれぞれの状況にあわせて支援している。睡眠剤、安定剤の服用に関しても、効果とリスクを十分に理解できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師と連携し、内服薬が変わった時も記録に残し、情報の共有に努めている。作用、リスク両方を理解できるよう努めている。		

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを主に、日常生活の中で役割を分担していただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活には花の水遣り、野菜の世話、散歩などの機会に戸外へ出ている。行事の際には、家族、地域に移動の介助、付き添いに協力していただけるよう働きかけている。	日常生活の中で中庭で花に水やり、ミニトマトを作り庭に涼みに出ては食べる、今年は暑く外に出る機会が少なかった。また、年間での外出支援では花見、バラ園などへの見学や外食支援も3ヶ月毎にある。車いすの方も一緒に出掛けられるようにしている。家族への外出支援の協力も依頼している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会はあまりとれていない。利用者の常態に応じた支援が必要である。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、いつでも対応が出来るようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけなどに留意し、工夫している、ホール天井には天窗を設け、自然光を取り込めるようにしている。	皆が共有するスペースには炬燵も置いてあり、少し不安げな利用者はここで職員と話をしながら午睡時にも集っている。室内には季節のコスモスや外出時の写真が何気なく飾られている。小じんまりしたスペースが落ち着いた趣をかもし出し、来所した学生が描いたチューリップの色紙を見て楽しい時間を思い出しているような利用者もいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士は、座席の配置等で配慮している。		

外部評価結果(GHゆりかご)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものなどを持ち込んでいただき、それぞれの利用者に合わせた家具の配置等に留意し支援している。	利用者は自分の居室から見える馴染みの山を自慢気に見せてくれる。馴染みの土地が見えることで居心地良く安心できる場になっている。部屋の家具は利用者の状況に合わせて配置できるように移動しやすい家具が置いてある。各部屋の入口にのれんが下げられ優しい雰囲気醸し出されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の利便性を考慮し、手すり等を設置している。出来ること判ることに関しては、それぞれの利用者の状態に合わせた目印をつけるなどの工夫をしている。		